

家計・くらしの調査 年次報告書 2020



2021年8月
日本生活協同組合連合会
政策企画室

もくじ

はじめに	．．．．P	2
2020年モニターさんから届いた声	．．．．P	3
1.モニター属性	．．．．P	5
2.収入・支出	．．．．P	6
3.電気・ガスの使用量と料金	．．．．P1	1
4.消費税しらべ	．．．．P1	3
5.集計表	．．．．P1	4
6.新型コロナウイルスによって生じた くらしの変化は世代間で違う？	．．．．P1	5
7.調査票	．．．．P1	9
8.「家計・くらしの調査年次報告書 2020」発行によせて	．．．．P2	0

はじめに

この調査は1978年「生協の家計簿」発行以来継続してきた「全国生計費調査」の流れを汲みつつ、2018年1月よりインターネットでの回答に限定して調査を実施しています。2020年は調査をインターネット化して3年目の年となります。

2020年の調査では1,000名を超える組合員にモニター登録いただきました。うち新規で登録いただいた方は88名でした。登録モニターには毎月1回、前月分の収入や支出を費目ごとにWebページに入力し、データを日本生協連へ直接送信いただいています。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染が広がる中で、ご参加いただいたモニターの皆さま、及びモニター募集の広報活動いただいた会員生協の皆さまに心より感謝申し上げます。

2021年になってもウィズコロナでの生活が続いています。いまだ感染収束の見通しが立っておらず、私たちのくらしを取り巻く環境は厳しさを増すことが予想されます。引き続き、この「家計・くらしの調査」を通じて皆さまと共にくらしの変化を捉え、社会に発信してまいります。今後とも一層のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【本調査の概要】

1.集計対象

2020年1月から12月まで連続提出いただいた方のデータ 749件（有効回答）

2.2020年の特徴

全世界で新型コロナウイルス感染症の感染拡大が進み、日本でも「緊急事態宣言」等の発出で、組合員の生活・生協事業に大きな影響をもたらした。そのような中で、以下の特徴が本調査から見いだされた。

(1)収入

2019年から継続するモニター世帯の収入月額平均は634,107円で、昨年より14,541円減少する結果となっている。但し年代別で見ると増減がある。また「特別定額給付金」支給により単月では黒字になったというコメントも寄せられている。

(2)支出

外出自粛要請・休校・テレワークの広がりなどにより、全世代で「食費」が増え、「外食費」は減っている。「教育費」は40代・50代で減少している。

(3)登録モニターの声

モニターからのコメントが年間3,074件寄せられた(P3~4参照)。

2020年モニターさんから届いた声

食費がやや多かったかなと思う以外は、出費はそんなになかったと思いますが、月末にドラッグストアやディスカウントストアに出かけて唖然としたことは、トイレトイペーパーやボックスティッシュコーナーがすべて空になっていたことです。朝から並んで買いためをしている様子を見て、我が家もストックしないといけないのではと不安になりました。来月は日用品の出費が増えそうです。

次女が高校を卒業した。今まで子育てに全く関心を寄せなかった夫が初めて「卒業式に出ようか」と言った(子供達の中学、高校とも名称も場所も知らなかった人)。私も入学式に自身の入職式と重なり参列できず娘に「入学式に1人だったのは私だけだった」と不安と悲しい思いをさせてしまったので卒業式には絶対に参列するつもりで用意していた。が、結局新型コロナで卒業生と教員のみでの式となった。次女も「練習もろくにせず、歌も誰に聞かせるために歌ったのか…」と残念がっていた。晴れの日を見れず本当に悔しい。

3月中旬、お義母さんが骨折で入院中、コロナの影響で面会できなかった時。元気だったお義父さんがお家で1人で亡くなってたという思いもしなかったことが起こってしまいました。ショックも大きかったですが、前だけむいて日々生活しています。

今月は、コロナウィルスで外出自粛の為も多々あると思いますが、ゴールデンウィーク前後位、仕事激減、何日も開店ガラガラ状態が続きました。自営業の為、心配しましたが、緊急事態宣言が解除された頃から段々と仕事出来るようになりました。仕事の出来る有難さがしみじみと実感されました。長女が10連休となり、手作りギョーザやチーズケーキ等作ってくれたので嬉しかったです。

新型コロナウイルスと給付金、ひとり10万円で何だか世の中が変わってきている、と、思う。これからどんな世の中になっていくのかしら？戦争の無い、平和な世の中でありますように。人間が人間を信じられる世の中でありますように。

お中元の時期になりました。年金生活になりそろそろ失礼したいと思う経費の一つですが「元気でいるのかな?」「変わりなく過ごしているのだろうか…」などと懐かしく顔を思い浮かべながら年に数回の交流のきっかけになっていると思うとなかなかやめられないものです

レジ袋有料化からひと月、我が家のレジ袋派男子達もしっかりマイバックを持ち歩くようになりました。お金がかかるとなると皆切実です。でも、あのちっちゃいコンビニの袋が生ごみを捨てるのに最適だったんですね。ごみの捨て方ももっと工夫しなくてはなりませんね。

コロナの影響で、普段の普通の生活が改めて幸せだと思います。学校のありがたみも改めてわかりました。

要介護1、軽い認知症ありの94歳の母と暮らしています。先日彼女が夜中のトイレに行こうとして転倒。痛そうにしましたがいつもの様に歩行車を押して歩いてました。(我が家はバリアフリー)でも念の為に病院へ行こうとして、玄関から外へ出た途端、腰砕け足動かさず状態になりました。外へ出たら、スロープを下りなければなりません。地面は凸凹してます。家内のバリアフリーと違いパニックを起こしたのだと思います。今東南海地震が起きたら…彼女、もちろん私も、パニックになるでしょう。そんな時、腰砕け歩こうとしない彼女を連れての避難を、私は出来るだろうか…無理。津波てんでんこを真剣に心に留めておこうと思いました。

両親の結婚60周年ダイヤモンド婚式だったが、お祝いに行くに行けず、プリザーブドフラワー付き電報を送りました。認知症の母ですが、家に有る小さなミッキーとミニーの人形を組み合わせてプリザーブドフラワーを可愛く飾ってくれた写メを兄が送ってくれました。「お花ありがとう。お花を眺めながら電話してるの」と母から電話が有り、翌日も同じ内容の電話が…電話かけたのは覚えてなかったみたいです。

4月から中越地方の大学に編入する息子。コロナの影響で入学式中止は早くに決まったが、寮の部屋で遠隔授業をするというので、4日朝の入寮に合わせて3日に上京させた。羽田空港に着いたときに、大学から本人に電話があり自宅待機に変更になったから戻れと！息子はすぐに飛行機でUターン。なぜ、前日までにその連絡ができなかったんだろうと腹が立った。往復の運賃が無駄になるじゃないかと思ったら、全額返金とのこと。ここでふと思った。国立大学だから、それも税金ではないか。1日、いや数時間早めの連絡さえしてくればよかったのに。コロナの影響で様々なところに影響が出ており、仕方ないこともあるが、防げるものは最低限の被害で済むようにしてほしい。ということで、5年ぶりに息子と暮らしている。これはこれでちょっと嬉しい(笑)

母の日、めずらしいあじさいの花が娘から贈られてきました。奮発したのがわかります。コロナ禍の中、少しでも喜ばせようとしてくれる娘の気持ちがいっぱいです。お返しといったら変ですが、娘のお誕生日プレゼントは、味気ないけどお金を送りました。

夫が定年退職しました。学生時代からの付き合いの夫が無事に定年を迎えられて、感慨深いものがあります。

正規職員として働きたく就職した。先ず3ヶ月はパートで働きその時点で双方相談をして今後を決めるとの契約。働いてみて分かる現場は厳しい。就労時間外での出勤を求められる(無給)。体力的にも厳しい。納得できないので辞める方向になると思う。でも、お給料をもらえるのはとっても嬉しい。

勤労統計調査がきちんと行われていなかったことで、主人の雇用保険の給付に影響が出ているかもしれない、と厚労省からお知らせが届いたので書類を提出したら、なんと追加給付と加算額が振り込まれました。退職したのは11年前で、書類には数百円程度と書かれていたので、金額の多さにびっくりしました。

母の認知症をやっと受け入れられたのかなぁ…実家の片付けをしようという気になりました。その気になったのなら暑い寒いの言っていないで、動いていこうと猛暑の中実家へと足を運びました。母は転倒して大腿骨骨折し要介護となり、一人っ子の私が介護者となり同居しました。同居し始めた頃は、親の老いを受け入れるのに時間が要りました。そして、親の認知症にも時間が要ったなぁと思います。実家のカレンダーは2010年5月のまま…介護者生活10年です。吹き出す汗と格闘しながら、懐かしいものもありましたが…黙々と分別作業しました。自分の身の始末の仕方も考え始めようと思った8月でした。

パートから正職員になり初の給与。パートの時と同じ業務内容なのに9万円高い。次女の大学が今年度はWeb授業に決定し通信費やコピー代としてQUOカード1万円分を送ってきた。Web授業も大学の先生も苦手な人がいるようで、7回の授業のうちまだ4回分しかアップされていず、授業を待っている科目もあり。遅れた理由として体調悪化や準備が間に合わないとのこと。Go To トラベル、イートなど詳しく分からない。国の借金が積み重なっていく恐ろしさ。全て私達に跳ね返ってくる。

医療従事者の慰労金をいただきました。子供がコロナで休校のなか、仕事にいきコロナにおびえる日々を過ごしていたのが報われた気持ちです。先月の台風の際、旦那が避難所要員としての手当てもあり、今月は臨時収入がおおかったです。でも、パソコンの修理やクリスマスプレゼントに使う予定です。

1年を通してみると、家のリフォームをしたり、娘の結婚式があったり、息子の車購入の頭金の援助をしたりして、出費も多かったのですが、子供3人が大学を卒業して、授業料を払わなくてよくなったので、自由なお金が増えて、気持ち的にすごく楽になりました。これからも計画的にお金を使って、人生を楽しく生きていきたいです。

就学援助金が適用されて 中学1年なので 99612円受け取りました。4月以前に準備したものの制服 カバン等に当てられる費用です。今月に入金されたので、今月に入れました。家計のやりくり本当に助かります。

大学院生の息子が学生起業家になりたいと、休学の相談に。既に地方自治体や地元商工会議所の支援も取り付けたとの事で思いきって背中を押してやりました。若手研究者奨励賞を取り、高額な給付型奨学金も貰えそうだったのでちょっと残念な気もしますが、安定よりも本人の納得のいく人生を歩む手助けをするのが親の務めと思いこれからも見守っていくつもりです。

家計簿をつけると我が家の家計が成り立っていないことに気づきました…いまは小学生2人ですが、高校と大学になるとグッと教育費が上がると聞いておりお先が闇です…今月の赤字要因は、机の購入10万円でした。テレワークで購入したのをすっかり忘れてました(^^; かと云って暗くなっても仕方ないので、見直して将来が明るくなるように考えます☆うーん、色々税金を払ってるのに、消費税10%は痛いですね。給付金も有難いですが、本当に困ってるヒトに届くといいですね。

夫の会社で残業規制が強まり、収入だけ考えると不安な面もありますが、夫が子どもを病院へ連れて行ったり保育園への送迎を代わってもらったりと良い面もありました。先が読めない不安な世の中ですが、家族で協力して乗り越えていかなければならないと改めて感じています。

大学1年の次女が後期もweb授業で気が減入っている。go to トラベルが始まりプロ野球、コンサートなどの集客も上限が引き上げられているのにどうして大学だけが始まらないのか納得がいかない。通勤電車内でも以前の様なもののラッシュ状態に戻っておるのに、大学だけが戻っていない。

今月はお墓を買いました。立派なのではなく、電車で気軽に行ける家から30分ほどの駅前にあるロッカー式のお墓ですから、100万もしません。入るところが決まってほっとしました。先の心配が一つ、減りました。

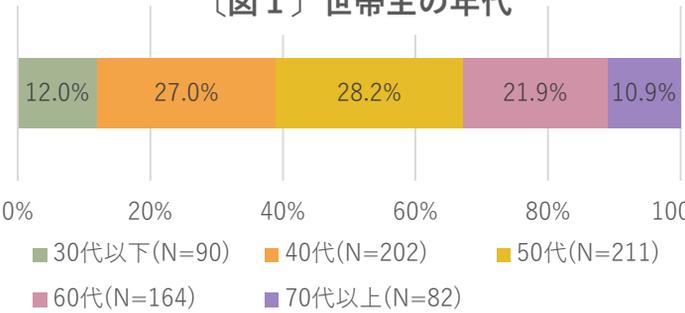
無事に1年間提出できました。本当に大変な1年間でした。コロナに始まり、父の入院、長男の受験、浪人生活突入、学校の休校、義父の入院、二人の受験生、コロナ疑い、職場でもコロナコロナ…。それでも家族みんな元気に過ごせたことはよかったです！と思えることです。地球はどうなっていくのだろう、破滅に向かっていくのだろうか、などなど暗くなってしまうことも多いですが、毎日過ごしていくことを大切に思ったりもします。今年はコロナが落ち着き、穏やかな気持ちで毎日過ごせるようになりたいです。もちろん、子どもたちがやった一っと思える日を迎えられるように、心から願っています！

1. モニター属性

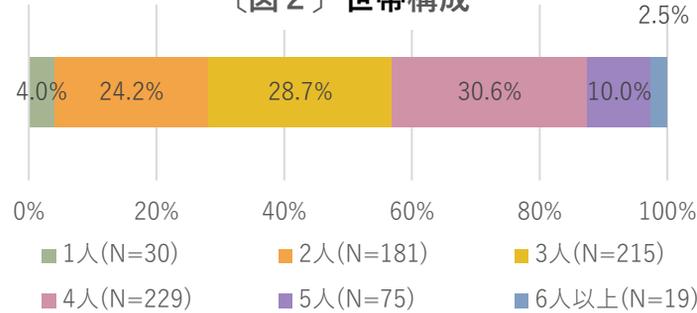
全国から20代～80代まで幅広い層にご参加頂いています（図1・7）。世帯構成は4人家族が30.6%と最も多く、3人、2人家族と続きました（図2）。世帯の主な収入は8割近くが「給与」からとなっています（図4）。

住居形態は持家の割合が多く、戸建と集合住宅を合わせると約83%でした（図5）。

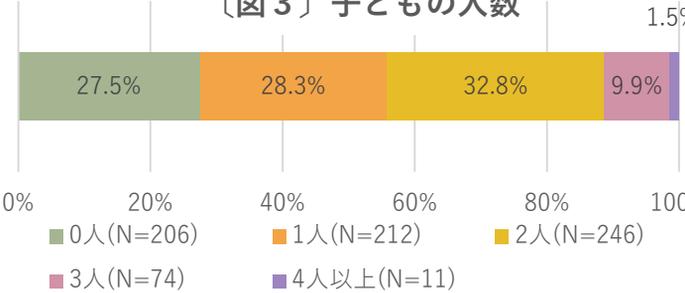
〔図1〕 世帯主の年代



〔図2〕 世帯構成



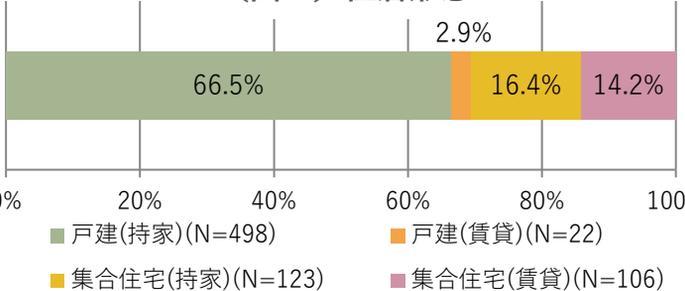
〔図3〕 子どもの人数



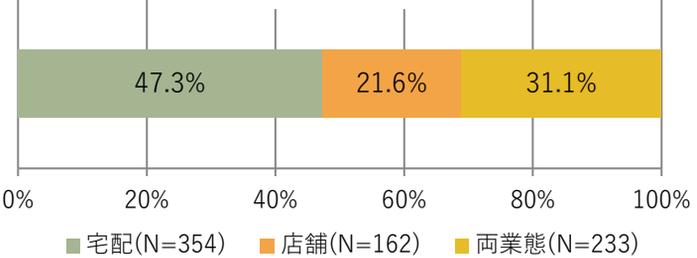
〔図4〕 世帯の主な収入



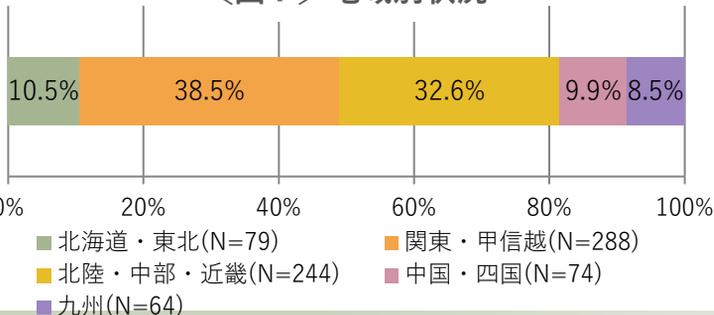
〔図5〕 住居形態



〔図6〕 利用業態



〔図7〕 地域別状況



〔表1〕 都道府県別エリア一覧

北海道・東北	北海道・青森県・岩手県・秋田県・宮城県・山形県・福島県
関東・甲信越	茨城県・群馬県・栃木県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・静岡県・山梨県・長野県
北陸・中部・近畿	富山県・石川県・福井県・愛知県・岐阜県・三重県・滋賀県・京都府・奈良県・和歌山県・大阪府・兵庫県
中国・四国	岡山県・広島県・鳥取県・島根県・山口県・香川県・徳島県・愛媛県・高知県
九州	福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

2. 収入・支出

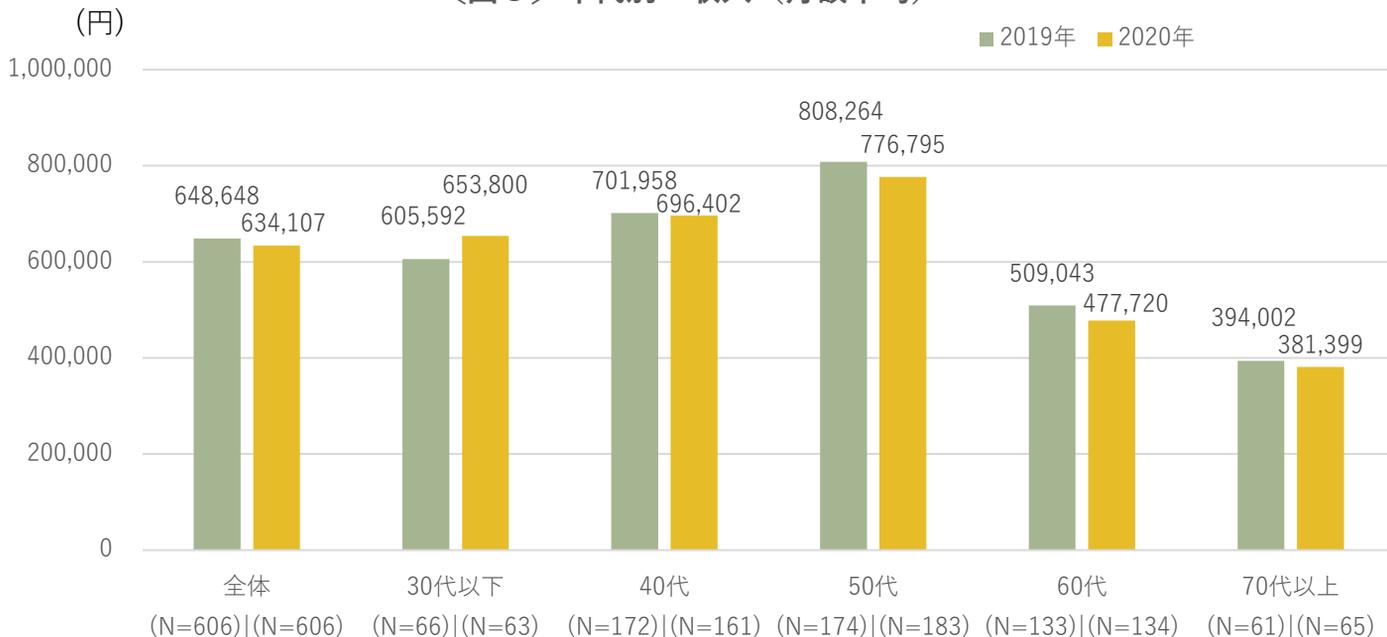
①収入

2019年からの継続モニター(606件)の2020年の収入を2019年と比較しました(図8)。収入月額平均は634,107円で、昨年より14,541円低い結果となりました。

年代別に見ると、30代以下では48,208円増加しています。その一方で50代は31,469円、60代は31,323円と減少しています。

※収入月額平均は、年収を12ヵ月で割った金額です。

〔図8〕年代別 収入(月額平均)



〔表2〕主な収入別 収入(月額平均)・前年比

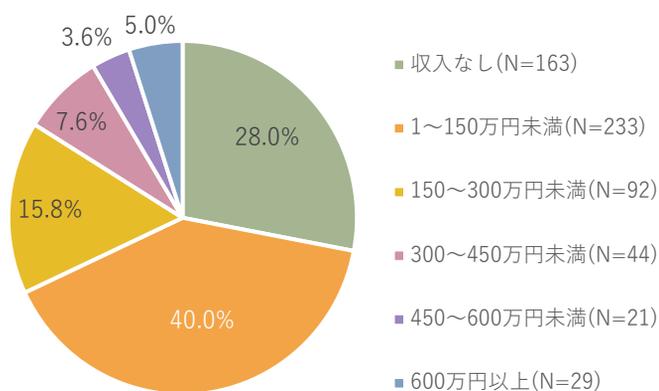
実収入		計	給料(夫)	給料(妻)	賞与(夫)	賞与(妻)	年金(夫)	年金(妻)	その他
全体	月平均金額(円)	634,107	317,528	87,508	77,959	12,590	44,930	19,044	74,549
	前年比増減率(%)	-2%	-2%	4%	-13%	6%	4%	1%	-4%
給与世帯	月平均金額(円)	696,056	404,455	108,668	100,291	16,062	9,870	2,650	54,061
	前年比増減率(%)	2%	0%	4%	-12%	6%	20%	28%	48%
年金世帯	月平均金額(円)	346,607	16,703	13,851	664	348	181,074	78,346	55,620
	前年比増減率(%)	-1%	-27%	-4%	75%	-53%	-1%	-4%	21%

※「全体」の内訳は、「主な収入が給料の世帯(給与世帯)」「主な収入が年金の世帯(年金世帯)」「主な収入が給料・年金以外の世帯(その他)」と3世帯に分かれます。上表には、給与世帯と年金世帯のみ掲載しています。

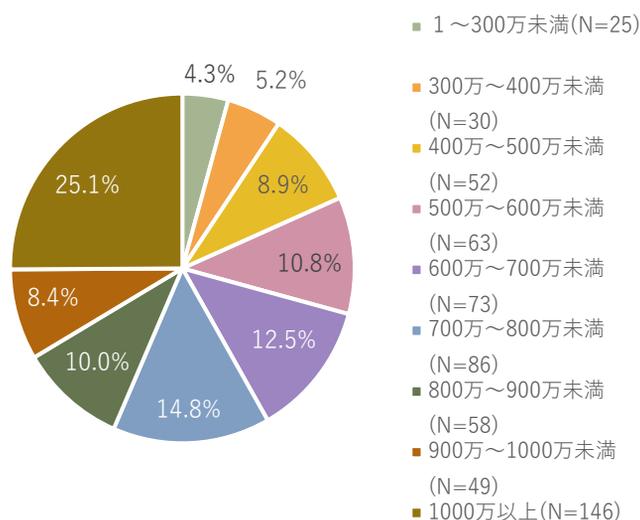
給与世帯の妻の年収の割合は、収入なしが28.0%、150万円未満が40.0%、150万円以上が32.0%となっています(図9)。世帯収入の担い手構成を見るために、妻の所得階層別に夫の年収の平均額を見ました(図11)。なお、モニターの全世帯年収は平均額751万円、中央値678万円です。

【情報メモ】「2019年国民生活基礎調査(厚生労働省)」では、2018年1年間の平均所得は「高齢者世帯以外の世帯」が659.3万円、「児童のいる世帯」が745.9万円、「高齢者世帯」が312.6万円となっています。世帯主の年齢階級別1世帯当たり平均所得金額は、「29歳以下」362.6万円、「30～39歳」614.8万円、「40～49歳」694.8万円、「50～59歳」756.0万円、「60～69歳」566.0万円(65歳以上は425.4万円)、「70歳以上」394.6万円となっています。

〔図9〕 給与世帯 妻の年収の割合



〔図10〕 給与世帯 世帯年収の割合

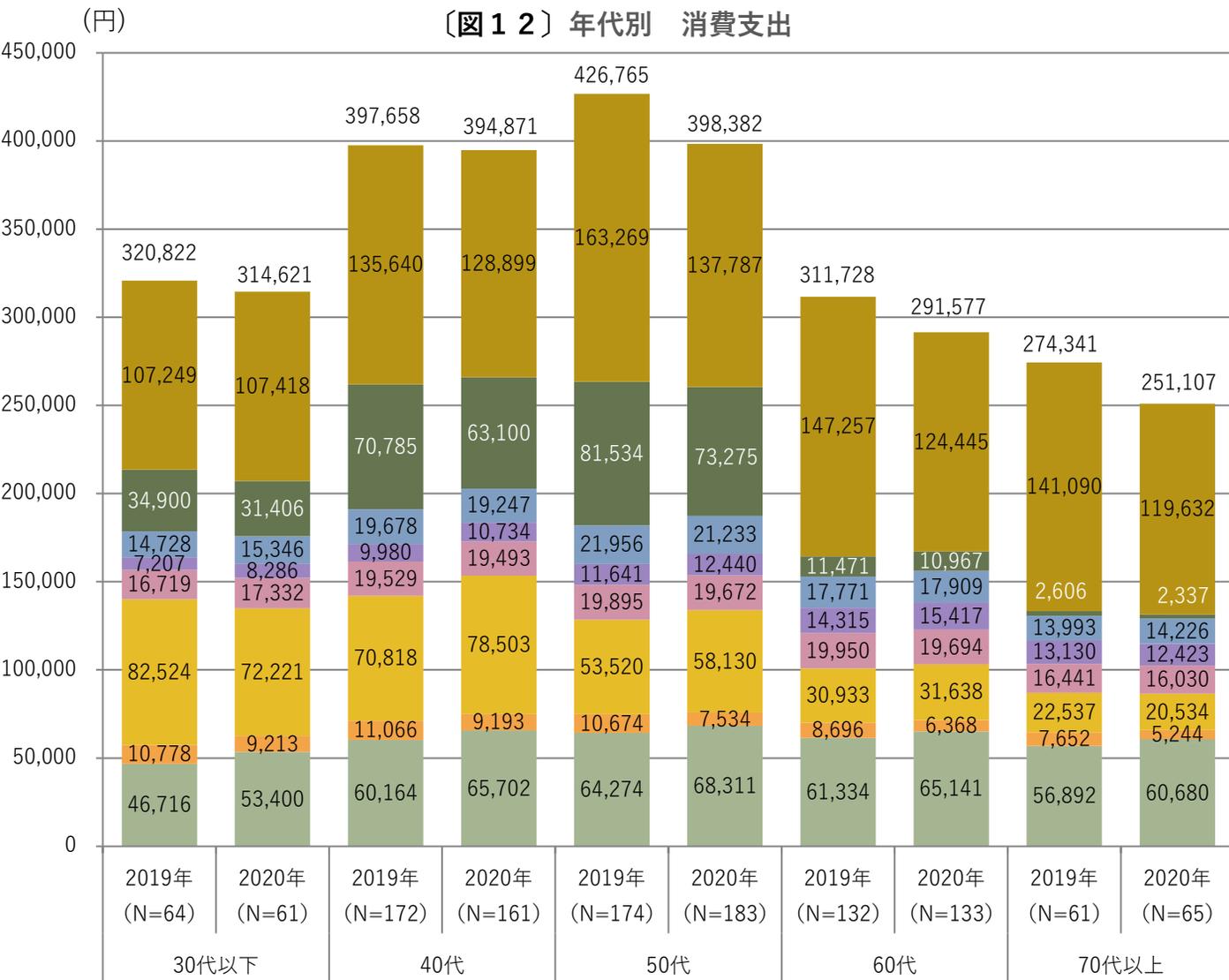


〔図11〕 給与世帯 年収(妻)別の世帯年収



②支出

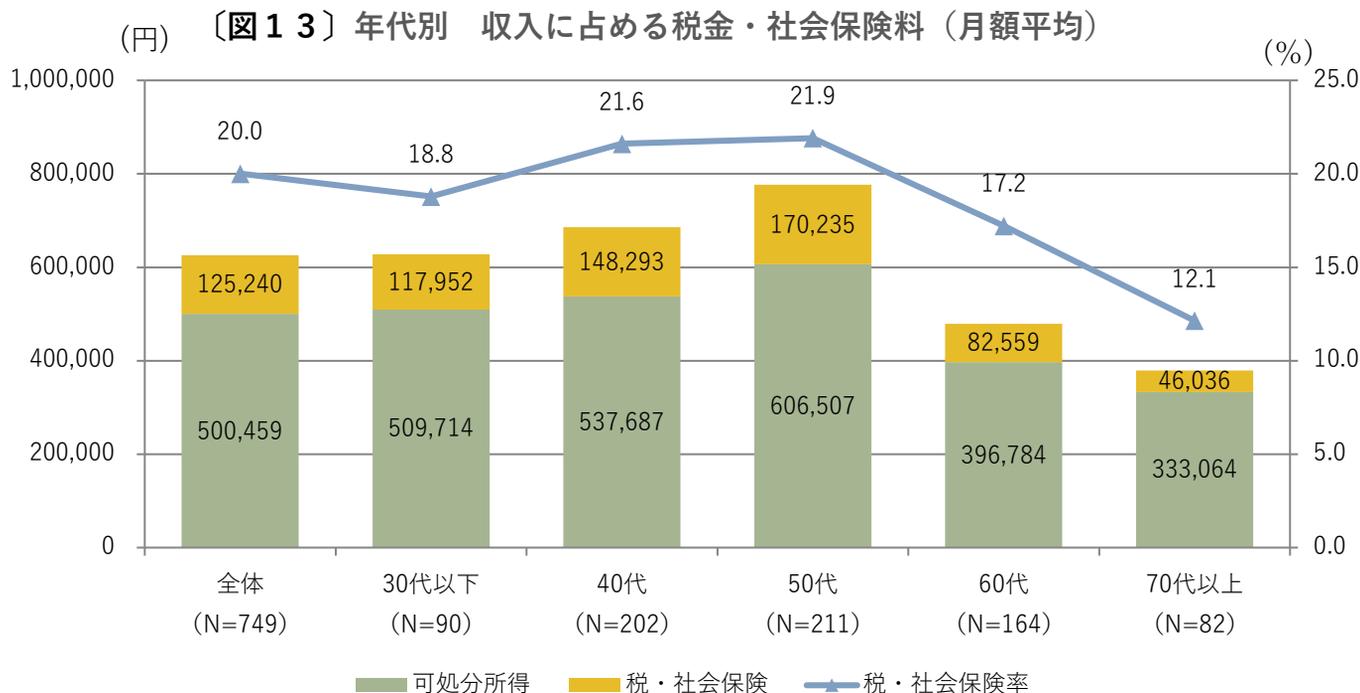
2019年からの継続モニターを対象とし、年代別に消費支出の月平均額を前年と比較しました（図12）。2020年は349,538円（全体月平均）で、昨年より約17,000円減少しました。年代別では、50代以上では20,000円以上減少していますが、40代以下では消費支出額の減少は極わずかでした。支出費目別では、全世代で「食費」が増え「外食費」は減っています。「教育費」は、40代と50代で約8,000円減少しています。「その他の消費支出」は、30代以下を除き減少し、50代以上では20,000円以上の減少となりました。コロナ禍で交際費・娯楽費等が減少したためとみられます。また、支出の内訳は不明ですが、40代、50代では「住居費」が増加しています。



- 食費
- 外食費
- 住居費
- 水・光熱費
- 保健医療費
- 通信費
- 教育費
- その他の消費支出

年代別に収入に占める税金と社会保険料（月額平均）を比較しました（図13）。金額・率共に50代が最も高く、70代以上は50代の半分近くまで低くなるのが分かります。

私的保険料は、給与世帯と年金世帯で生命保険額の差が約2倍ありますが、損害保険はほぼ同額となっています（図14）。



【情報メモ】生命保険文化センターの「平成30年度生命保険に関する全国実態調査」では、生命保険（個人年金保険を含む）の世帯年間払込保険料は、38.2万円となっています。モニター調査では全体で42.9万円、給与世帯で49.0万円となっています。

〔図14〕主な収入別 私的保険料（月平均）



〔表3〕主な収入別 私的保険料（年平均）

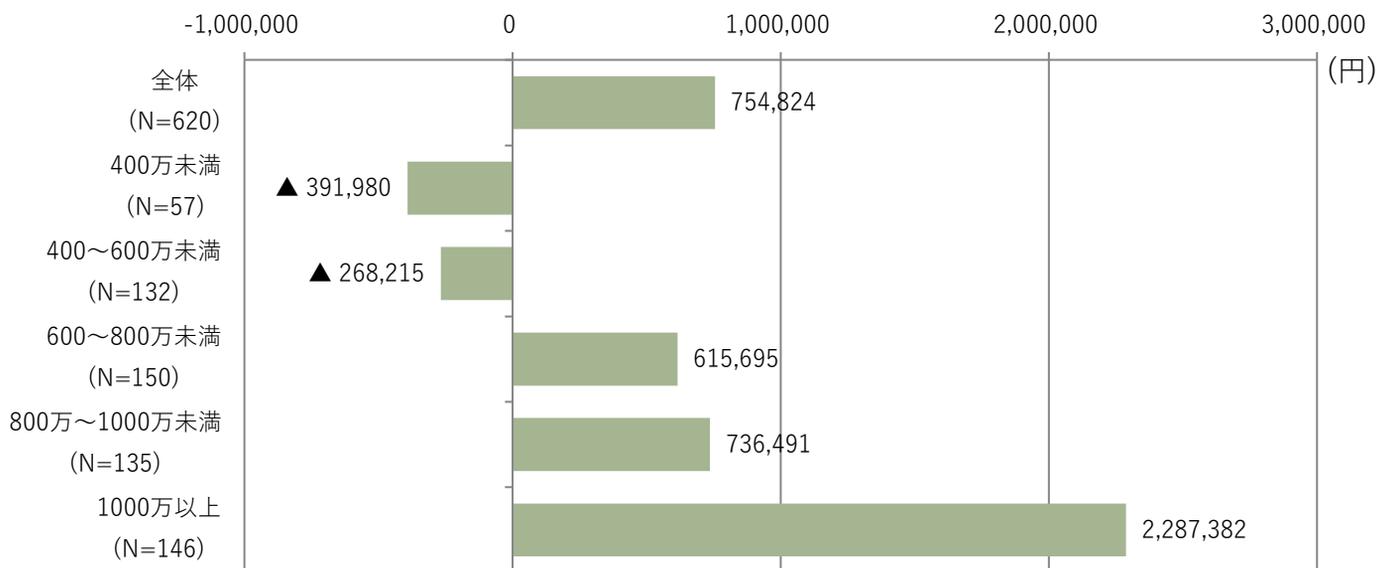
	生命保険	個人年金	損害保険	合計
全体 (N=749)	330,357	98,728	76,830	505,915
給与世帯 (N=582)	369,019	120,855	75,202	565,076
年金世帯 (N=144)	180,995	15,339	80,485	276,819

③収支

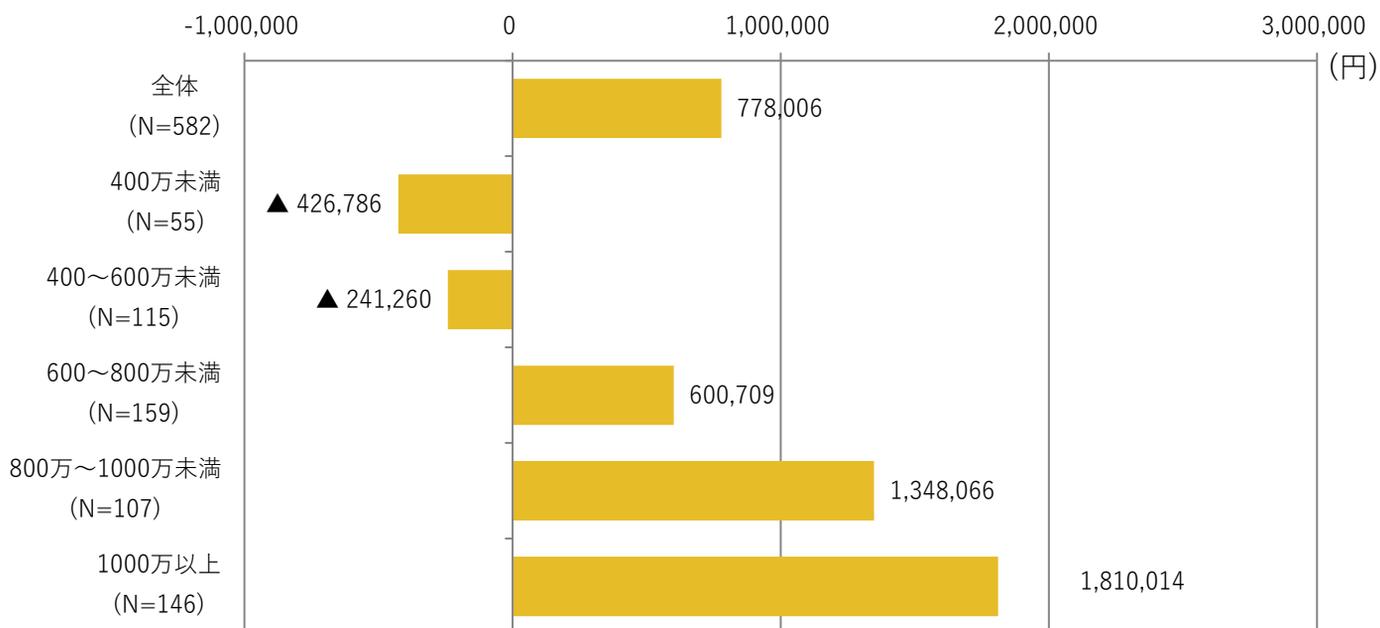
給与世帯における年間収支平均について、年収別に2019年（図15）と比較しました。全体では、778,006円の黒字で（図16）、昨年より約23,000円高い結果となりました。年収別に見ると、600万円未満では前年同様赤字となっており、400万円未満世帯では約35,000円赤字が増えています。

※不動産関連の大きな収入の影響を避けるため、「その他収入」を除きます。

〔図15〕 【2019年】 年収別 年間収支平均（給与世帯）



〔図16〕 【2020年】 年収別 年間収支平均（給与世帯）

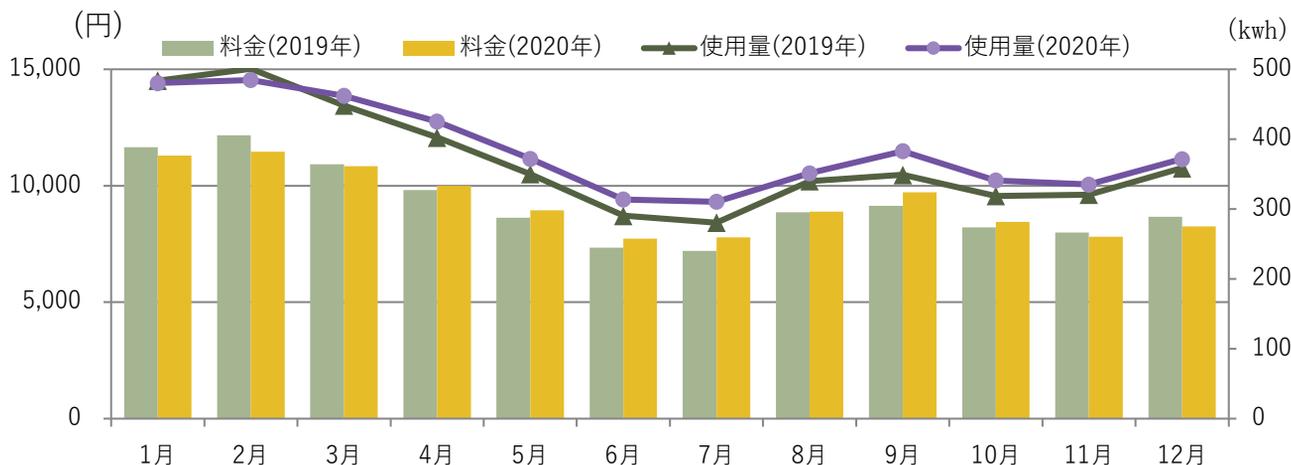


3. 電気・ガスの使用量と料金

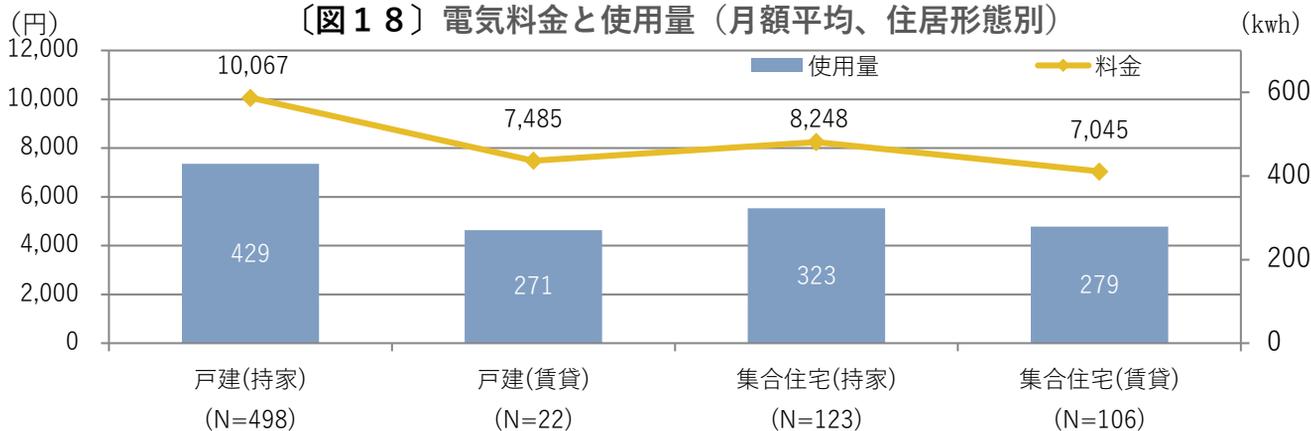
①電気

電気料金、使用量を2019年と比較しました（図17）。前年と大差はないものの、2020年3月以降の電気使用量がわずかに昨年を上回っています。住居形態別では、戸建（持家）が最も高く、形態により差が見られました（図18）。

〔図17〕電気料金と使用量（平均、月別の推移）



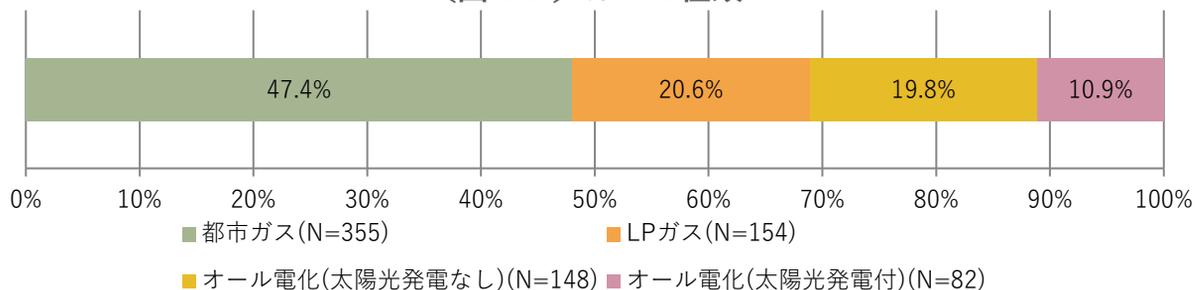
〔図18〕電気料金と使用量（月額平均、住居形態別）



②ガス

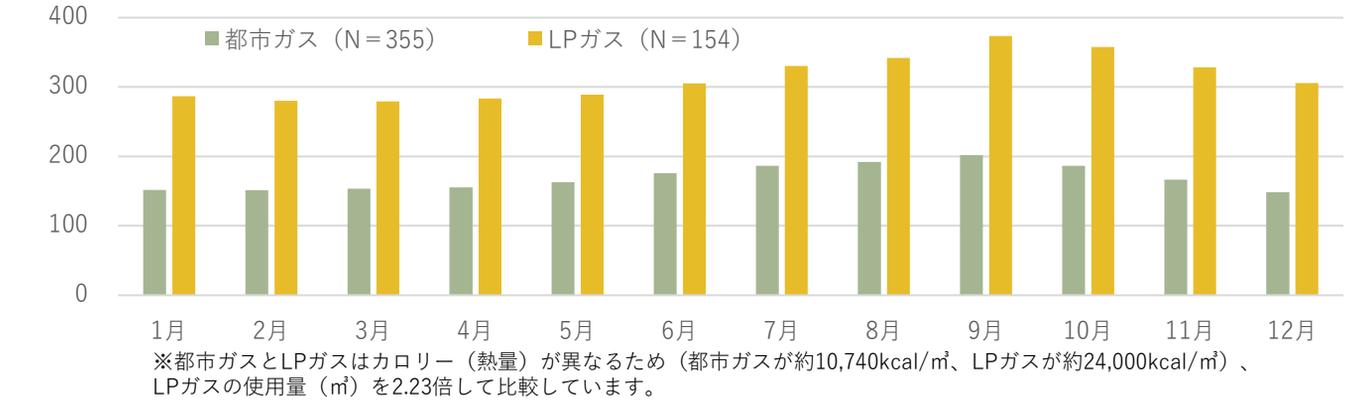
使用しているガスの種類は、都市ガスが47.4%と約半数を占め、LPガス（プロパンガス）が20.6%でした。ガスを使用しないオール電化世帯は30.7%と全体の1/3近くを占め、そのうち太陽光発電付きは10.9%でした。

〔図19〕ガスの種類

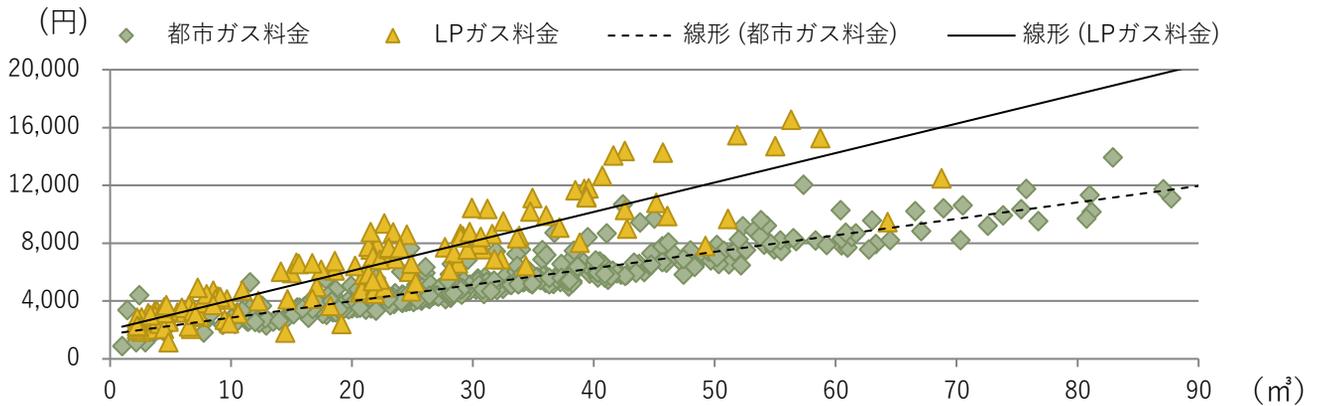


都市ガスとLPガスの1m³あたりの料金を比較しました（図20）。どの月も、LPガスが都市ガスより120～170円程度高いことが分かります。月平均額では、使用量が同じであっても、都市ガスよりLPガスの方が料金が高く、分布にバラツキがあります（図21）。LPガス1m³あたりの料金を地域別に見ると、地域により料金に差がありました（図22）。

〔図20〕 都市ガス・LPガス 1m³あたりの料金（月別の推移）



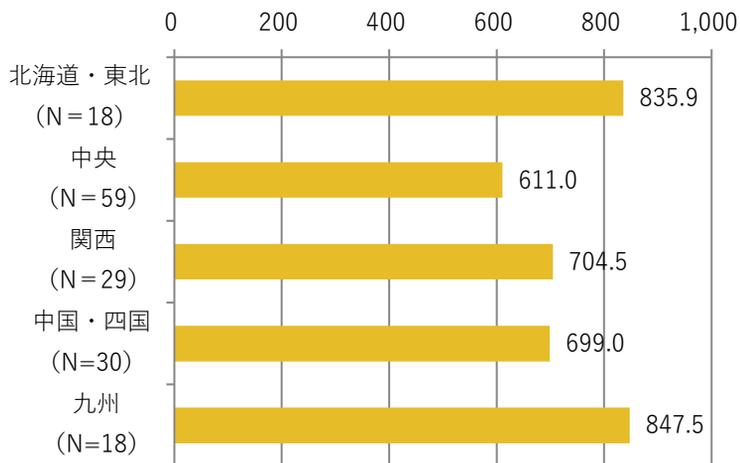
〔図21〕 都市ガスとLPガスの料金比較（月平均） ※カロリー調整済み



〔表3〕 LPガスの料金と使用量（月平均、地域別）

	料金(円)	使用料(m ³)
北海道・東北 (N=18)	4,822	5.8
中央 (N=59)	6,715	11.0
関西 (N=29)	6,574	9.3
中国・四国 (N=30)	5,522	7.9
九州 (N=18)	5,148	6.1

〔図22〕 LPガス1m³あたりの料金（月平均・地域別） (円)



4. 消費税しらべ

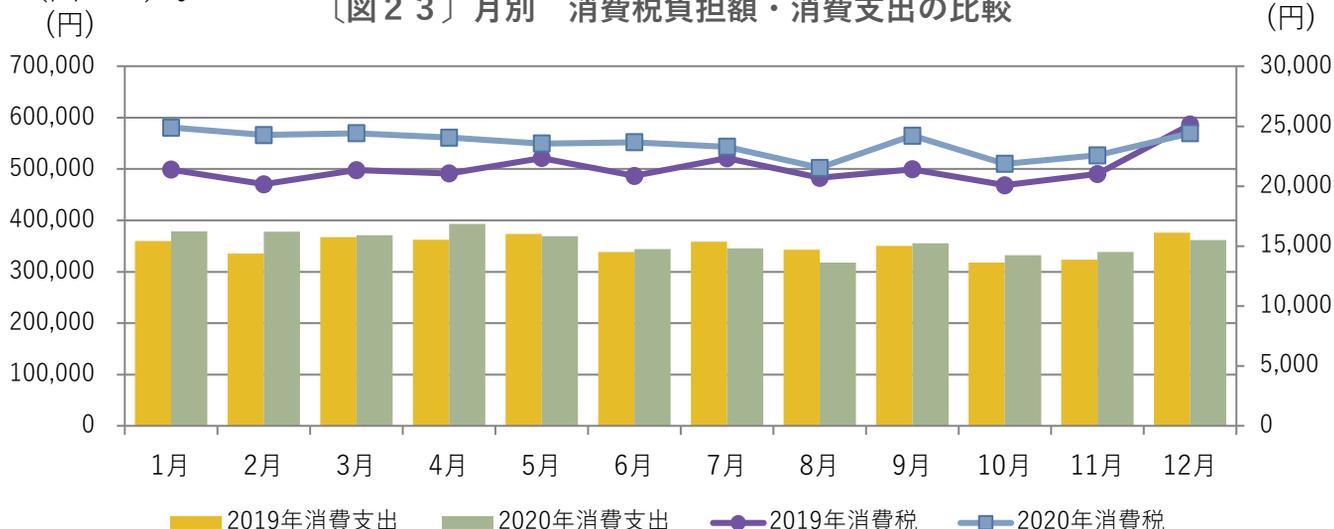
【「消費税しらべ」の概要】

「家計・くらしの調査」と並行して、「消費税しらべ」を実施しました。本調査は「家計・くらしの調査」の参加モニターを対象に、消費支出に占める消費税の金額を毎月提出いただく任意の調査です。

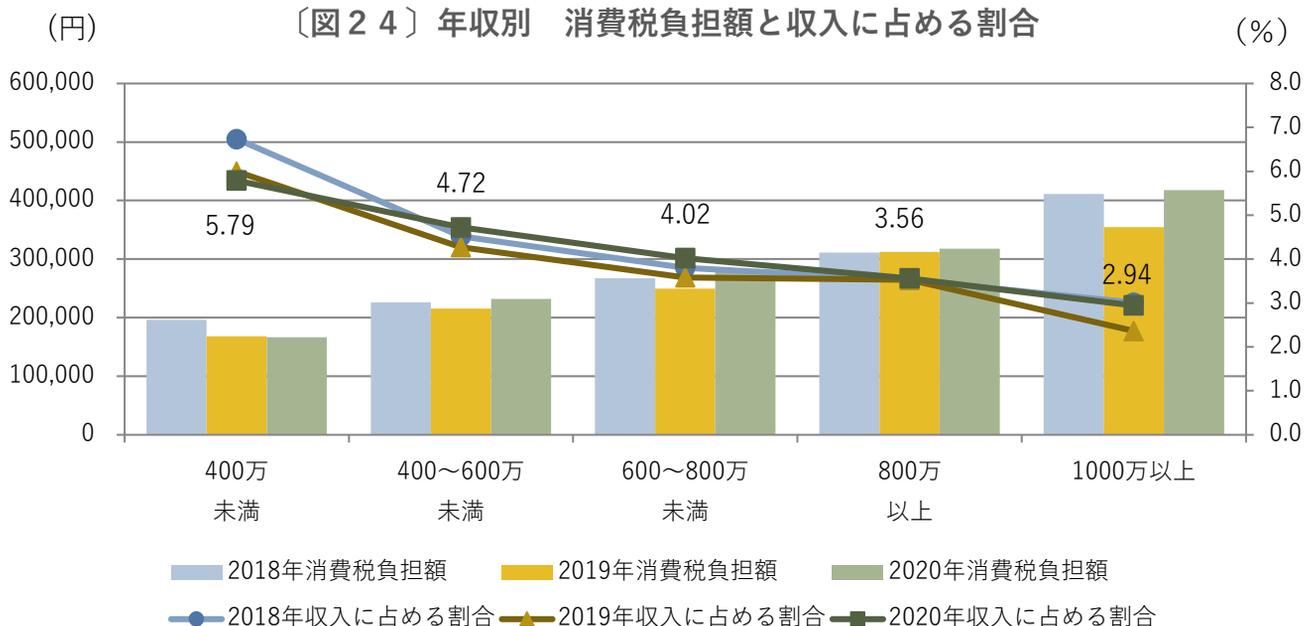
2020年は732名の方にご協力いただき、有効回答533件について集計しました。

1カ月当たりの消費税額は平均で23,696円で、2019年よりも2,181円増加しました（図2 3）。新型コロナウイルスの影響で2020年は軽減税率の食費が増加し、交際費、娯楽費等を含むその他の消費支出や外食費など10%課税となる支出は押さえられましたが、トータルでは税負担額が増加しました。2019年10月の税率引き上げの影響が数値に反映したものとされます。消費税について収入に占める負担割合を見ると過去2年間の調査と同様、所得階層が低い世帯ほど高くなっています（図2 4）。

〔図2 3〕 月別 消費税負担額・消費支出の比較



〔図2 4〕 年収別 消費税負担額と収入に占める割合



5. 集計表（総平均）

	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
給料（夫）	331,633	400,516	448,792	164,678	26,033
給料（妻）	97,720	115,653	96,031	69,334	14,962
賞与（夫）	93,536	101,513	124,502	18,505	5
賞与（妻）	19,528	20,255	10,188	6,995	1,130
年金（夫）	273	1,180	3,520	110,456	183,044
年金（妻）	3,041	677	4,904	35,039	84,176
その他の収入	81,935	46,186	88,804	74,337	69,750
収入計	627,666	685,980	776,741	479,344	379,100
所得税（夫）	17,694	21,547	32,179	8,254	2,021
所得税（妻）	2,360	3,371	1,944	1,475	501
住民税（夫）	17,078	21,771	27,743	11,488	3,906
住民税（妻）	2,924	3,871	2,719	2,215	685
その他の税金	5,775	7,468	9,736	11,372	11,171
税金計	45,830	58,028	74,322	34,804	18,285
健康保険（夫）	19,805	27,242	30,106	19,264	18,302
健康保険（妻）	4,865	6,335	5,037	5,090	7,426
厚生年金（夫）	37,347	44,190	46,393	14,328	594
厚生年金（妻）	7,924	9,448	6,664	4,977	610
雇用保険（夫）	1,222	1,322	1,512	369	26
雇用保険（妻）	240	268	206	160	26
国民年金（夫）	12	595	495	425	277
国民年金（妻）	708	155	1,639	2,084	101
国民年金（子）	0	712	3,861	1,059	388
社会保険料計	72,122	90,265	95,913	47,756	27,751
生命保険	31,607	35,618	28,018	21,140	14,653
損害保険	5,796	5,499	6,840	7,139	6,697
個人年金ほか	8,438	11,139	11,403	3,933	1,240
私的保険料計	45,841	52,256	46,261	32,212	22,590
食費	52,256	63,978	67,482	65,297	61,476
外食費	9,329	9,298	7,793	6,000	4,648
住居費	113,631	78,067	58,614	46,579	20,177
水・光熱費	17,486	19,265	19,816	19,276	16,412
保健医療費	9,331	10,532	12,399	14,241	11,631
通信費	15,001	19,354	21,238	17,446	13,644
教育費	28,728	60,903	72,378	11,456	2,009
その他の消費支出	110,553	123,834	142,734	128,518	120,162
消費支出計	356,314	385,232	402,455	308,813	250,159

6. 新型コロナウイルスによって生じた暮らしの変化は世代間で違う？

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態に陥り、非常に大きな変化があった1年でした。緊急事態宣言や外出自粛要請、営業自粛要請を受け、「家計・暮らしの調査」モニターの皆さんの生活にも大きな変化があったことが、記入いただいたコメントから読み取れます。

1. コメント全体の傾向

皆さんからは、1年間で3,074件のコメントをいただきました。記入いただいたコメントに登場した単語ランキング・トップ20は次のようになりました。

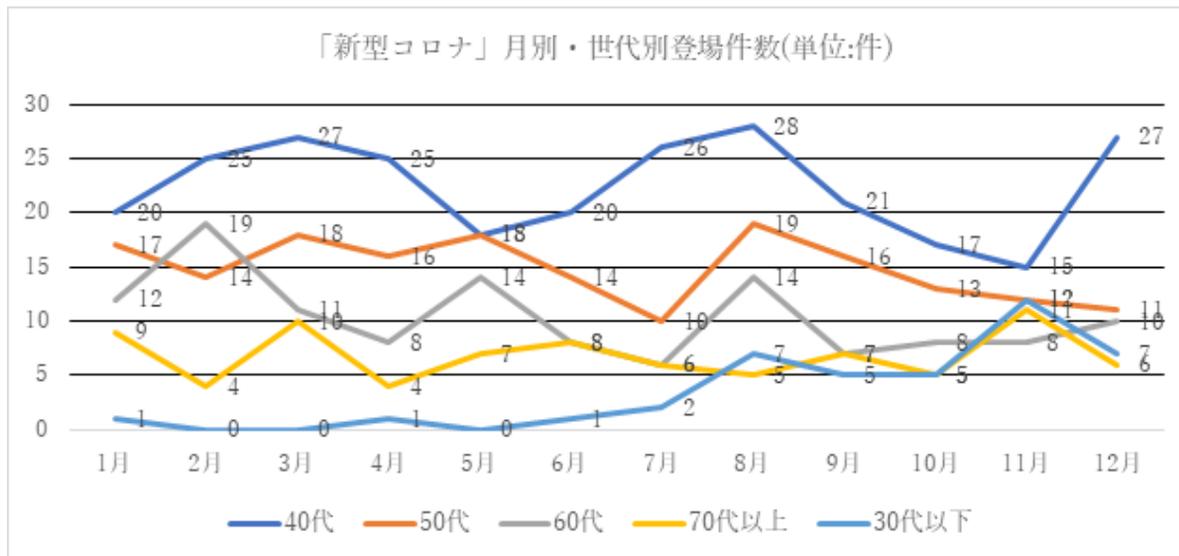
30代以下を除いて「新型コロナウイルス感染症」に関する単語がコメント上位に登場しています。また関連する「自粛」は全体では第20位、40代で第12位、50代で第15位でした。全体では第13位の「特別定額給付金」は50代では第2位でしたが、その他の世代では上位50位までには登場しませんでした。

No.	全体(3,074)	件数	割合	30代以下(473)	件数	割合	40代(802)	件数	割合	50代(715)	件数	割合	60代(709)	件数	割合	70代以上(375)	件数	割合
1	新型コロナ	692	22.5%	新型コロナ	81	17.1%	新型コロナ	269	33.5%	新型コロナ	173	24.2%	新型コロナ	140	19.7%	新型コロナ	82	21.9%
2	今月	549	17.9%	出費	71	15.0%	食費	202	25.2%	特別定額給付金	130	18.2%	新型コロナ	120	16.9%	今月	71	18.9%
3	食費	471	15.3%	多い	55	11.6%	今月	135	16.8%	今月	122	17.1%	多い	82	11.6%	多い	51	13.6%
4	多い	369	12.0%	支出	52	11.0%	増える	115	14.3%	食費	97	13.6%	買う	79	11.1%	食費	50	13.3%
5	出費	334	10.9%	買う	52	11.0%	多い	102	12.7%	買う	80	11.2%	支出	73	10.3%	出費	48	12.8%
6	増える	333	10.8%	食費	51	10.8%	影響	99	12.3%	多い	79	11.0%	食費	71	10.0%	増える	46	12.3%
7	支出	332	10.8%	かかる	49	10.4%	子ども	98	12.2%	収入	76	10.6%	増える	70	9.9%	買う	43	11.5%
8	買う	332	10.8%	新型コロナ	48	10.1%	支出	94	11.7%	支出	74	10.3%	出費	67	9.4%	かかる	39	10.4%
9	子ども	282	9.2%	子ども	43	9.1%	出費	83	10.3%	増える	73	10.2%	行く	56	7.9%	支出	39	10.4%
10	かかる	253	8.2%	夫	35	7.4%	買う	78	9.7%	子ども	67	9.4%	子ども	51	7.2%	年末	38	10.1%
11	夫	204	6.6%	今年	32	6.8%	外出	70	8.7%	出費	65	9.1%	GOTOキャンペーン	50	7.1%	今年	30	8.0%
12	収入	198	6.4%	医療費	31	6.6%	自粛	69	8.6%	夫	55	7.7%	かかる	47	6.6%	家族	23	6.1%
13	特別定額給付金	178	5.8%	高い	30	6.3%	かかる	67	8.4%	かかる	51	7.1%	旅行	46	6.5%	購入	23	6.1%
14	家	173	5.6%	増える	29	6.1%	家	65	8.1%	外食	51	7.1%	高い	43	6.1%	子ども	23	6.1%
15	影響	165	5.4%	費用	29	6.1%	減る	65	8.1%	自粛	50	7.0%	夫	42	5.9%	年末年始	23	6.1%
16	外食	160	5.2%	お正月	28	5.9%	早い	61	7.6%	使う	45	6.3%	外食	37	5.2%	使う	22	5.9%
17	使う	155	5.0%	家計	25	5.3%	休校	59	7.4%	家	44	6.2%	使う	36	5.1%	夫	22	5.9%
18	高い	150	4.9%	お年玉	23	4.9%	収入	59	7.4%	良い	41	5.7%	医療費	34	4.8%	GOTOキャンペーン	21	5.6%
19	行く	149	4.8%	娘	23	4.9%	夫	50	6.2%	ボーナス	37	5.2%	家族	34	4.8%	家	20	5.3%
20	自粛	143	4.7%	かさむ	22	4.7%	毎日	49	6.1%	行く	35	4.9%	購入	34	4.8%	過ごす	19	5.1%

2. 「新型コロナ」について

(1) 全体状況

新型コロナウイルス感染症は、2020年1月15日に日本国内で初の感染が判明し、感染が急拡大していきました。感染の波にあわせてコメント数が上下しています。第1波(3月下旬から5月下旬)、第2波(7月から9月中旬)、第3波(10月中から2021年2月下旬)に連動して寄せられたコメントを見ると登場件数の山・谷は世代によって違いが生じています。



(2) 「新型コロナ」の日常生活への影響

① 「自粛」生活の中で感じたこと

単語ランキングでは第20位、143件となっています。そのうち69件が40代、50件が50代からのコメントとなっています。

自粛でほとんど働いていないので、給付金頼みの収入でした。来月からは、給付金がなくなるのですが、仕事は戻らないし戻れないため、どうしようか困っています。

コロナ関連の自粛要請を受け、週末は巣籠もをりしています。レジャー費を減らすチャンス！と思いきや学校休校もありお昼ご飯代がかさみ食費が増えています (▽ ;)

今月は非常事態宣言で外出自粛の為、外食はしませんでした。その代わりに、テイクアウト、ネット購入での宅配、まとめ買いが増えました。

コロナ自粛の日々を乗り越えた先に何があるかわかりませんが、明日は発症するかもしれないと思い、今日を懸命に過ごしています。主人は、海外勤務で次にいつ会えるかわからず、主人が感染しない事を祈り、子供との暮らしの中で親が感染したら子供はどうなるか考えるだけで不安な日々です。どうかいつかこの日々に終わりがきますように。ただただ祈る毎日です。

お盆でしたがコロナで自粛のためお客様もなく家計は助かりましたがさみしく過ごしました。

家のボーナスローン！！ドカーンと！！引越しと一緒に買った、洗濯機と冷蔵庫の支払いもドカーンと！！コロナ自粛で、パート代減って9月は、ひっそり暮らそう～

自粛生活で外食費はゼロ。季節のいい時期、外に出た気分でお昼はベランダでランチ。心地よい風を感じながらのランチは心安らぐひと時です。自粛生活を楽しもうと工夫しました。離れて暮らす息子たちが心配です。

コロナ旋風の中、学校自粛で孫2人を昼間あずかり、爺婆生活学習塾を開いた。勉強は爺が担当、生活一般学習を婆が担当した。孫のペースに合わせたこの学習に孫達の目の輝が増した。3密回避の中、爺婆孫の関係は濃密になった。早いコロナ終息を祈る。

②「特別定額給付金」について

政府の経済対策として「特別定額給付金」(1人10万円)が配られました。2021年3月31日までの給付済金額合計は約12兆6700億円でした。

(出所:https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/gyoumukanri_sonota/covid-19/kyufukin.html#sui)

単語ランキングでは、第13位 178件となっています。但し、そのうち130件が50代からのコメントでした。50代ではランキング第2位となっており、高い関心がうかがえます。

5月末に「特別給付金」が払い込まれました、私の場合は孫娘二人に5万円ずつ奨学金返済に充てるよう口座に贈りました。少ない給料でいつも負担に感じていることを知っていましたので。年取ると残念ながらあまり欲しものがなくなり、自分でも驚いています。

給付金が入ったが、ボーナスが減額されたため、すべて、将来の子どもの大学資金として貯蓄した。

特定給付金がやっと届きました。コロナで沈んだ気分をパッと晴らせるよう、楽しいことに使いたいです。

我が家はコロナ禍による収入の増減はなく、自分の給付金10万円は本当に必要な所へ寄付しようと思いますが、どこにすれば良いのかまったく見当がつかず決めかねています。スピード感が大事なのに、これじゃ政府と同じ…と自嘲しています。

特別定額給付金に加え児童手当と子育て臨時給付金も支給されましたので、にわか金持ち気分です。収入が激減して困っておられるところへ少しでも回りますようにとの願いを込めて、恐る恐る外食も再開。これからはばらばら財布のひもを緩めて、消費を拡大したいと思っています。

特別定額給付金の入金がありました。医療支援基金に寄付するか、使って経済を回した方が良いのか、ずっと続いている抗がん剤治療費の足しにするか、迷っています。

コロナで夫は3か月以上も在宅勤務。私のストレスマックスの上に夫の賞与は3分の1になってますますストレス。給付金の10万円はそれぞれのお小遣いにしました。

③「Go Toキャンペーン事業」について

甚大な影響を受けている観光・運輸業、飲食業、イベント・エンターテインメント業などを対象とし、期間を限定した官民一体型の需要喚起キャンペーンで、令和2年度補正予算案額として1兆6,794億円が予算計上されました。「Go To Travel キャンペーン」は2020年7月22日から12月27日、「Go To Eatキャンペーン」は10月1日から実施されました。

(出所:<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001339698.pdf>)

単語ランキングでは、全体で第60位、79件となっています。

コロナに対するいろいろな規制が2020年10月11日から大幅に緩和されました。各地の観光地が賑わいを取り戻しつつあるのは喜ばしいことですが、反面感染の再拡大が懸念されます。キャンペーンでばらまかれる財源が税金であることを思うとき、様々な事情で参加できない人々の胸の内はいかばかりでしょう。納税者の一人として複雑な思いです。

Go To Travelで〇〇に一泊二日で旅行に行ってきました。高速代も割引、〇〇市が発行している周遊チケットとGo Toイートクーポン券と予約サイトを駆使して、思った以上にお得で、普段では考えられない予算で家族旅行を満喫できました。コロナ禍で失ったものも多いですが、たまにはこんないいこともあってもいいのかなと、久々に明るい話題でした。

「自粛」と言われたり、Go Toキャンペーンで「出かけろ」と言われたり、一貫性がなく、何か振り回されているように感じる。もっとコロナ対策をとって、安心出来たら「出かけろ」と言われなくても出かけます。

結婚*0周年、今年はみんなで集まって何かしたいと楽しみにしていたのに、コロナですべてパーです。迷いましたが思い切ってコロナ対策が徹底したGo Toに申し込み人里離れた温泉に行ってきました。密を避けて〇〇山や木彫りの里などゆっくりできました。でもなんだか心から楽しめませんでした。

世間ではGo Toキャンペーンで盛り上がっていますが、私には縁のない話でコロナ禍の中、優雅に宿泊旅行している人達がうらやましいです。

3.生活様式の変化について

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、日常生活の中に「新しい生活様式(ニューノーマル)」の普及と定着が呼びかけられました。モニターの皆さんのコメントには、それらがどのように登場したのか主なコメントを紹介いたします。マスメディアでよく登場していた「3密(の回避)」「ソーシャルディスタンス(の確保)」は、ほとんど登場しませんでした。

(1)「ステイホーム」～第159位 34件

家計支出の変化だけでなく、日常生活にはさまざまなストレスが発生していました。

ステイホームでかつ暑いためエアコンをつけっぱなしにしたためか、電気代が前年の1.5倍でした。食費も増えました。大学が結局1年間オンラインになったのに大学の学費は減免なく支払するのに納得いきません。

妻は医療職なので、仕事に対してステイホームはあり得ない。

ステイホームで、食べる事が多くなり、家計も体も肥満状態です。

コロナステイホームで、実家のお墓参りにも行けない、前代未聞の夏を過ごしています。

よくステイホームで時間ができ家の片づけや新たな趣味を始めたなどという話を聞きますが、私は専業主婦のため子供の昼食に宿題の〇付け、質問の応答など子供が3人いることもあり、とても忙しくなりました。

大学生の娘が、コロナの影響で帰省しているので、食費や光熱費が増えている。住んでいない下宿の家賃も払っている。ステイホームを充実させるために、健康グッズや家電を買ってしまっている。

ステイホームで教養娯楽費と自動車関係(ガソリン代・高速代)が断然減りました。

コロナでまだ思った通りの外出は出来ないの、ステイホームなのでお金を少しでも貯めたいです。

初めて帰省しない年末年始、ステイホームの冬休み、楽しみといえば食べるくらいで食費が跳ね上がりました。

(2)「テレワーク(の急速な普及)」～第240位 25件

テレワークの実施により、プラス面ばかりでなくマイナス面も発生していることがわかります。

コロナ禍で夫が3か月以上もテレワークなので私のストレスマックスです。

5月中旬にやっとでテレワーク準備が整い、テレワーク継続中です。大学生の子どもも、GW明けからオンライン授業です。

子ども達の休校に、夫のテレワークが加わり食費と電気代がかさみました。

夏休み、猛暑、テレワーク、在宅ということもあり今年の電気代は最高新記録です。

コロナで自粛要請があっても、テレワークが進まず、毎日の通勤が怖い。雪がなくなり自転車通勤できますが、早くテレワーク開始して欲しいです。

都内で一人暮らしの息子が、在宅勤務ということで帰省し、食事作りの仕事ができ、私のストレスは幾分緩和されたが、食費が跳ね上がったようだ。それでも、夜10時までテレワークする息子を見て大変だなと思う毎日だった。

主人がテレワークで自宅にいるので水道光熱費が上がった。

緊急事態宣言による休園・テレワーク・外出自粛で外食費は減ったものの、食費、子どものおもちゃ・絵本代が増加。

休校&テレワークで食費、電気代が高くなりました。給食費の分と思えば許容範囲内かな…。

7. 調査票



家計・くらしの調査 ◆ 12月分 ◆

こちらは「家計・くらしの調査」の調査票のページです。
費目をご入力の上、「確認画面へ」ボタンを押してください。

入力の締め切りは1月20日です。

※収入・支出が発生しなかった費目については「0」をご入力ください。

※*は必須項目です。

※入力に困った時は「家計・くらしの調査」手引き、または費目検索をご参照ください！

[○「家計・くらしの調査」手引き ←こちらをクリック](#)

[○「家計・くらしの調査」費目検索 ←こちらをクリック](#)

[○「家計・くらしの調査」生計費調査との比較対照表 ←こちらをクリック](#)

収入		
給料	夫*	<input type="text"/> 円
	妻*	<input type="text"/> 円
貸与	夫*	<input type="text"/> 円
	妻*	<input type="text"/> 円
年金（公的・私的）	夫*	<input type="text"/> 円
	妻*	<input type="text"/> 円
その他の収入*		<input type="text"/> 円
収入計		0円

税金（直接税）		
所得税	夫*	<input type="text"/> 円
	妻*	<input type="text"/> 円
住民税	夫*	<input type="text"/> 円
	妻*	<input type="text"/> 円
その他の税金*		<input type="text"/> 円
税金（直接税）計		0円

社会保険料		
健康保険 ※介護保険も含む	夫*	<input type="text"/> 円
	妻*	<input type="text"/> 円
厚生年金	夫*	<input type="text"/> 円
	妻*	<input type="text"/> 円
雇用保険	夫*	<input type="text"/> 円
	妻*	<input type="text"/> 円
国民年金	夫*	<input type="text"/> 円
	妻*	<input type="text"/> 円
	子*	<input type="text"/> 円
社会保険料計		0円

私的保険料	
生命保険* ※定期保険、養老保険、終身保険、 医療保険、がん保険、学費保険など	<input type="text"/> 円
損害保険* ※CO・OP火災共済、火災保険、 自動車保険、旅行保険など	<input type="text"/> 円
個人年金ほか*	<input type="text"/> 円
私的保険料計	0円

消費支出	
食費* ※外食を除く、中食を含む	<input type="text"/> 円
外食費*	<input type="text"/> 円
住居費*	<input type="text"/> 円
水・光熱費*	<input type="text"/> 円
保健医療費*	<input type="text"/> 円
通信費*	<input type="text"/> 円
教育費*	<input type="text"/> 円
その他の消費支出*	<input type="text"/> 円
消費支出計	0円

◆ 上記の「水・光熱費」のうち、電気とガスについて詳しく教えてください。

電気・ガス		
電気 ※使用量について、 小数点以下は四捨五入し 整数でご回答ください	料金*	<input type="text"/> 円
	使用量*	<input type="text"/> kwh
ガス ※ガスを使用していない方は 「0」とご入力ください ※使用量について、 小数点以下は四捨五入し 整数でご回答ください	料金*	<input type="text"/> 円
	使用量*	<input type="text"/> m ³

◆ 1つの項目で100万円を超える大きな支出があった場合は
「今月の家計についてひとこと」欄にその用途を具体的に記入願います。

今月の家計についてひとこと
<div style="border: 1px solid gray; height: 50px;"></div>

消費税しらべ（任意回答）	
◆ こちらは「家計・くらしの調査」とは別の調査で、任意回答です。	
◆ 以下の方法で金額を算出し、「消費税額」の欄に記入してください。	
・消費支出から消費税が課税/非課税となる支出で分ける	
・消費税がかかる品目から、軽減税率対象の品目(A)と、非対象の品目(B)に分けて支出金額を集計	
・(Aの支出金額合計 ÷ 108) × 8 = Aの消費税額	
・(Bの支出金額合計 ÷ 110) × 10 = Bの消費税額	
・Aの消費税額 + Bの消費税額 = 消費税額	
※小数点は入力できないため、四捨五入して整数でご回答ください。	
※詳細は「手引き」の16ページを参照ください。	
◆ 「消費税しらべ」に12か月連続でご協力いただいた方には、別途500円の図書カードをプレゼントいたします。	
消費税額	<input type="text"/> 円

確認画面へ

「家計・くらしの調査 年次報告書2020」発行によせて

埼玉大学 教育学部 教授 重川純子

(放送大学客員教授・「生活経済学」担当)

2021年もなお続いています。2020年は新型コロナの影響を大きく受けた1年でした。家計簿提出の方のコメントにも「新型コロナ」が一番多く登場しています。

2019年は4月から5月の連休の長期化や消費税増税前の駆け込み消費などもあり、支出が膨らみがちになる要素があったことを考慮する必要がありますが、継続記帳された方の変化をみると、全年齢層で平均支出額が減少しています。そのような中で、在宅勤務・授業の影響で食費が増加し、各年齢層でコメントに「食費」が多く登場しています。毎日準備する必要があり、支出している費用だけでなく、かける時間量の増加も大きな負担になっています。

支出が膨らむ40歳代・50歳代では、食費のほか、住居費や教育費が大きな割合を占めています。家賃や住宅ローンが主な内容と推察される住居費は家庭の努力での削減が難しく、むしろ1割程度増加しています(「住居費」に家具・家事用品を含む本調査では内訳の金額は調査されていませんが、総務省「家計調査」では前年に比べ「住居費(家賃や設備修繕など)」の変化は比較的小さく、「家具・家事用品」の支出が増加しています。)。教育費は、所得制限付きながら幼稚園や高等学校の授業料や保育園の保育料の無償化の拡充の影響もあってか減少しています。削減率は各年齢の平均では1割程度で、依然支出の中の大きな割合を占めています。授業料の問題だけではありませんが、まずは更なる支援策が期待されます。